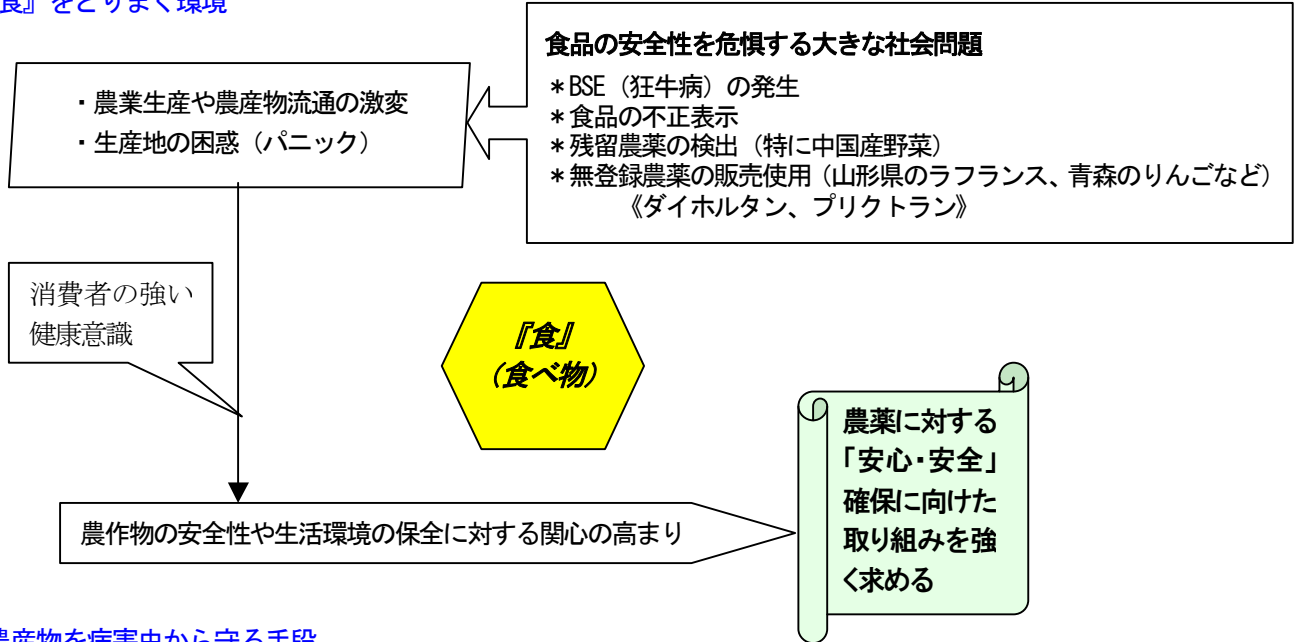


14年 資料

「昨今の農業をとりまく問題とその対策」・「ネオニコチノイド系農薬について」

I 昨今の農業をとりまく問題とその対策

1) 『食』をとりまく環境



2) 農産物を病害虫から守る手段

丹精こめた農産物を病害虫から守る手段として、

- ◆ 農薬防除
- ◆ 病害虫に対して抵抗性の強い作物の栽培
- ◆ 栽培法の研究・改良＝減農薬、無農薬栽培←強電解水・木酢液などの特殊抽出液や天然(非化学)農薬の利用など

ほかにもいろいろな手段があると思いますが、生産性かつ経済性を高めることを考えた場合、農薬使用における病害虫防除は不可欠です。

3) これからの求められる農業【農薬使用】について

以上のことから、これからの農業生産にとって重要なことは、消費者の必要としているものを必要としている方法で栽培することを第一におこななければならないと思います。すなわち、高品質(おいしく・新鮮・きれい・安全安心)な作物であることです。一方、生産者の立場としては、生産性＝経済性(生産量を増やし高い価格で売る)をも考えなければなりません。

これらのことから、『**農薬の利用と適正使用**』ということが第一に重要となります。農薬の安全性は「農薬取締法」に基づき厳密・厳格に管理されていますが、農薬を使用する立場として『**農薬安全基準**』を厳守するとともに農薬の適正かつ安全使用による効果的な防除が生産者の責務でもあります。特に『**無登録農薬等**』の使用は、**消費者の信頼を失墜し、農産物の販売・産地全体にとってイメージダウン**に繋がってしまいます。

第二に、『**トレーサビリティ・システム**』の導入ということがあげられます。これは、生産様式から栽培履歴(施肥・防除など)までの一貫した情報を管理し、消費者に開示することにより、いわゆる『**生産者と消費者の顔の見える関係**』を構築しようとするものです。

生産者の農業に対する正しい情報と知識、適正な農薬使用に対する理解を改めて認識することにより「安心・安全」な農産物の生産を通して、**生産者と消費者との信頼関係を築きあげる**ことが安定的生産活動に結びつくものであります。

※ 農薬安全使用基準 (農薬のラベルに記載されています)

適用作物が「ぶどう
おうとう・うめ」と
なる。他の作物では
使用できない ←

| 作物名 | 適用害虫名 | 希釈倍率 | 使用時期 (収穫前) | 本剤及びMEPを含む 農業の総使用回数 | 使用方法 |
|------|------------------------------|-------|---------------|------------------------|------|
| ぶどう | アブラムシ類・ブドウスカンパ・ ブドウトラカミキリ | 1000倍 | 21日前まで | 2回以内 | 散布 |
| おうとう | アブラムシ類・ハマキムシ類 | 2000倍 | 14日前まで | 2回以内 | |
| うめ | アブラムシ類・アメリカシロヒトリ | 1000倍 | 14日前まで | 2回以内 | |

この濃度を必ず守る ←

ぶどうでは収穫21日以前のみ使用可能。収穫直前は使用不可

1作のうちに、合計2回までしか使用できない ←

II ネオニコチノイド系農薬について

平成4年に「アドマイヤー剤」が登録されて以来、7年「モスピラン剤」、「ベストガード剤」が相次いで登録され、ネオニコチノイド系といわれるこのグループの殺虫剤は野菜や水稻、果樹など多くの場面で主要殺虫剤として使用されています。さらに昨年(2013)から今年(2014)にかけてネオニコチノイド系の新薬剤がいくつか登録されましたのでご紹介したいと思います。

ネオニコチノイド系の特長としては、

- ・植物体内での浸透移行性
- ・幅広い殺虫スペクトラム [薬剤の種類や対象となる害虫によって効果差ある]

油・コナジラミ・アザミウマ・ヨコバイ・シンクイ・カメムシ・ロウムシ
コナカイガラ・マメハモグリバエ・ゴマダラカミキリムシ・コガネムシ など

があげられます。かつてのピレスロイド系の「アディオン」「スカウト」「アーデント」などの薬剤に代わり使用が多くなってきております。効果が高いと頻りに使用しすぎると害虫に抵抗性が発生し効き目が低下するので、注意が必要です。

【ネオニコチノイド系殺虫剤一覧】

| 薬剤名 | アドマイヤー | モスピラン | ベストガード | バリアード | ダントツ | アルバリン |
|---------|---------------------------------|--------------------------------------|---|---|---|---------------------------------|
| 一般名 | イミダクロプリド | アセタミプリド | ニテンピラム | チアクロプリド | クロチアニジン | ジフテヒラン |
| 化合物群 | クロロピリジン環系 | | | | クロロチアゾール環系 | テトラヒドロフラン環系 |
| 剤型(成分%) | 水和剤(10) フロアブル(20) 粒剤(1) | 水溶剤(20) 粒剤(2) | 顆粒水溶剤(10) 粒剤(1) | 顆粒水和剤(30) 箱粒剤(1) | 水溶剤(16) 粒剤(0.5) 粉剤DL(0.15) | 顆粒水溶剤(20) 粒剤(1) 粉剤DL(0.5) |
| メーカー | 日本バイエル | 日本曹達 日本農業 | 武田薬品 | 日本バイエル | 武田薬品 | アグロカネショウ |
| 人畜毒性 | 劇物 | 劇物 | 普通物 | 劇物 | 普通物 | 普通物 |
| 魚毒性 | A類 | A類 | A類 | A類 | A類 | A類 |
| 薬剤ごとの特長 | 作物に対する薬害 少なく、有用昆虫に 悪影響ない。 | ミツバチ・マル ハナバチに影響 少ない。幅広い 効果。 | 溶けやすい。ミ ツバチ・マルハ ナバチに影響あ り。粒剤では30 日以上効果。 計量カップ付き で調整し易い。 | ミツバチ・マル ハナバチに安全 性高い(散布翌 日放飼可)。鱗翅 目に効果大。 | ボトル入で薬剤調合 時の計量容易。ミカ ンキイロアザミウマ への活性大。 | 唯一テトラヒドロフラ ン環を持つ化合物群に 分類。 |